

テーマ名

米子市法勝寺町商店街活動報告

～身の丈にあった楽しく、あきらめないまちづくり～

氏名：石賀 治彦（いしが はるひこ）

勤務先：石賀本店

職位：代表

(要 旨)

平成5年から商店街活動に関わり20有余年。平成10年から商店街事務作業を青年部有志で引き受け現在も続けている。また、空き店舗を利用し、平成11年から駄菓子屋を10年間ボランティアで営業した。平成20年には街づくり会社を有志3人で設立し、翌平成21年には国の補助金を活用して、築40年の老朽化したアーケードを民間主導で撤去した。同時に自己所有の蔵を利用しテナントミックスでお店をオープンさせた。平成23年3月にはアーケード撤去後の商店街を環境整備事業で「まちの公園化」という住民の考えた街並みを実現させた。このように、まちづくり会社を立ち上げ事業を実施するやり方は、「米子方式」と全国で呼ばれるようになった。先駆けゆえの苦労や失敗も多々あるが、その行動に賛同し多くの人材が集まり現在も関わっている。

目 次

はじめに	4
活動開始	4
大型店オープン	4
事務員のリストラ	4
駄菓子屋「ほっしょうじ本舗」	5
振興組合解散	6
中心市街地活性化基本計画	6
まちづくり会社「株式会社 法勝寺町」	6
アーケード撤去	6
善五郎蔵	7
「ほっしょうじ通り」環境整備事業	7
E Vカーシェア実証実験	9
チャレンジショップ	9
軽トラ市	9
農商連携	9
商店街連携・共同イベント	10
いろいろ挑戦	10
今後の展開	10
最後に	10

はじめに

私がいる鳥取県米子市は山陰の玄関口で、昔から「山陰の大阪」と呼ばれる商業の盛んな土地柄です。そんな米子もご多分にもれずバブル崩壊とともに商店街はシャッター通りとなっていきました。

そんな状況の中、すこしでも街が良くなればと様々な活動に取り組んできました。それらを紹介しながら今後のヒントになればと考えます。

活動開始

私は昭和40年に米子に生まれ、商店街で育ちました。家業は500年ほど続く、陶器・仏具小売業で私は17代目となります。昭和63年に大学を卒業しセメントメーカーに事務職で入社し、平成5年に退職して帰ってきました。当時はまだ商店街も賑やかで、「土曜市（米子が発祥の地）」や「元旦夜明け市」が行われていました。私も青年部に入会し商店街活動に参加しました。何度かイベント実行委員長になり、「一店逸品運動」や「各店ゴミの市」や「子供向けイベント」等を企画実行しました。なかでも子供向けイベントはかなり好評でした。大阪の松屋町（おもちゃの卸屋街）に出向いて景品を安く仕入れて、輪投げ・宝探し・千本釣り・ビンゴゲーム・ストラックアウト・ダーツゲーム等に使用し、年間100万円ほどの利益を得ていました。

大型店オープン

近郊に高島屋、天満屋、サティなどの大型店は以前からあり、商店街の若手もテナントで出店しており、ある程度は共存共栄がなりたっていたように思えました。しかし郊外に平成11年イオン日吉津ショッピングセンターができた後、状況は一変しました。

土曜市や元旦夜明け市を実施しても、全くお客さんが来なくなったのです。これには打つ手がなくイベントの縮小・廃止に追い込まれて行きました。

事務員のリストラ

私のいる「本通り商店街」は3町内からなる約300mのアーケード商店街で、昭和47年に完成しました。会計はそれぞれの町内ごとで、それぞれ振興組合を組織していました。事務員もそれぞれの組合に1人ずついました。私の属する法勝寺町商店街振興組合の事務員は病を患い、平成10年に死亡しました。その際青年部有志で組合

の会計（通帳）を預かり愕然としました。本来あるべき 2,000 万円～3,000 万円のアーケード修繕積立金が全くなかったのです。それまで組合会計など全く関わったこともなく、親会が牛耳っていたわけですので知るはずもありません。アーケードの構造上の不備から雨漏りがあり、改修工事もかなりの頻度で行われていたのも理由の一つでしたが、最も圧迫した理由は、空き店舗が増え、賦課金会費の収入減により、事務員への給与の支払いへの補填でした。毎年約 200 万円の給与を修繕積立金から取り崩していたのでした。私たちは過去に起きたことは仕方ないとあきらめ、今これから修繕積立金を貯め始めることを決めました。新たに事務員を雇うこともやめ、青年部有志で事務作業をすることにしました。年間 200 万円の経費削減です。各店から集めている賦課金会費も 3 割減らしました。手作業で行われていた請求書作成もパソコンの得意な会員が担当し合理化しました。私たちは組合から月 2 万円手数料をもらって、必ず作業の後に飲み会を行いました。そこで今後のことを話し合ったり、お互いの和を深めたりしていきました。

駄菓子屋「ほっしょうじ本舗」

毎月の作業後の飲み会で「シャッターをひとつでも開けよう」と話が出ました。予算はイベント収入や会費で集めた 50 万円です。50 万円で店舗も借りて商品も仕入れなくてはなりません。ある商業誌に掲載された京都の駄菓子屋の記事が話題になり、駄菓子屋をやってみようと思った勢いで決定しました。翌週の商店休みに皆で京都のそのお店を見学に行き店主にお話を伺いました。なんとかできそうだと判断し、その帰りに大阪の松屋町に寄り、おもちゃ問屋の紹介で、駄菓子問屋に出向き、商品を分けてもらうことの約束をして帰りました。そしてその翌週にレンタカーを借り 40 万円分の商品を積んで帰りました。店舗は元和菓子屋の店舗跡を社長に頼みこんで格安で借り、平成 11 年 12 月 5 日に駄菓子屋「ほっしょうじ本舗」をオープンさせました。店番は青年部有志がボランティアでやりました。補助金は一切もらわず、約 10 年間営業を続けました。手探りで始め、皆で知恵と力を合わせて頑張りました。集客力のある店舗であったため、営業＝イベントとなっていました。駐車場も近所になくても週末は親子連れが目立ち、魅力ある個店をつくれれば、どこからでもお客はやってくることを実感しました。ちなみにお店のこだわりは、消費税なしと、瓶入りジュースと、チュウチュウでした。

振興組合解散

様々な努力にもかかわらず、空き店舗は増加していきました。高齢者だけになった店舗の場合、年金だけで生活が可能で店を続けると赤字という理由で廃業されるところもありました。アーケードの電灯を朝からすべて点灯するのをやめにしたりして経費削減に努めましたが、それでも限界がありました。15店舗のみの営業となった時点で平成13年振興組合の解散を決めました。昭和40年代には45店舗あったころの面影はもうありませんでした。

中心市街地活性化基本計画

平成20年米子市が国の中心市街地活性化基本計画の認定を受けました。やる気のある民間事業者には手助けするというものでした。アーケードは35年が経過し老朽化が激しく修繕費は毎年数十万円単位で使われていました。平成17年にはアーケードの上から物が落下し、10年以内に、撤去か、大規模修繕か、新装かの選択を米子市から迫られていました。修繕積立金はやっと500万円貯まっていた。500万円を選択できるのは撤去しかありませんでした。私たちはすぐに手を挙げました。いつも計画が2～3割で動き出すのが私たちのパターンで、後で大変な目にあうのです。ただチャンスの前髪はつかみ損ねたら二度とめぐってこないし、1番初めこそ皆が本気で協力して下さるのは間違いありません。

まちづくり会社「株式会社 法勝寺町」

国の補助金を受けるためには、振興組合もしくはそれに準ずる団体でないとだめでした。振興組合解散後は任意団体「法勝寺町商店会」で活動してきましたので、それでは無理でした。そこで有志3人で資本金100万円のまちづくり会社「株式会社 法勝寺町」を平成20年9月30日に設立しました。国にまちづくり会社と認めってもらうために、事あるごとにマスコミやメディアに出演しました。市長も呼んでの「まちづくりフォーラム」も3回ほど実施しました。おかげで国に認定してもらい補助を受けられることになりました。

アーケード撤去

約40年間慣れ親しんだアーケードを撤去するには、アーケードに面している住民全員の承諾が必要でした。総会を開いても5名ほどの出席しかありませんでした。仕

方がないので一軒一軒説明して回りました。意外と反対もなく好意的でした。私は商店会の財政状況と、今後、負の遺産を子や孫に引き継ぐのか、率直にありのままをお話ししました。最後は「お前が言うのなら仕方がない」という感じでした。今までの私たちの活動がここで生きてきたわけです。おもしろかったのは、撤去一週間前の解体業者の事前説明会には、ほとんどの住民が来られ立ち見でした。

アーケード撤去を市民の皆さんにも知ってもらおうとイベントもしました。さよならとあえて言わず「ありがとうアーケードフェスタ」と題して、自治会総出のイベントになりました。自治会婦人部のフラダンスあり、太鼓あり、ヒョットコ踊りありの夜を徹しての宴会となりました。

平成21年8月、約40年分のホコリを落としながらアーケードは撤去されました。

ここでは、あまり書きませんが、電力会社、上下水道、ガス会社、NTT、有線放送等様々な関係機関との調整作業は大変でした。なにせすべてが初めてのことなので誰も様子が分からず、毎日のように、どこかに呼び出され打ち合わせをしていました。

ただ困難になるたびに、必ず誰かが助けてくださいました。大切なのはたくさんの方でたくさんの方に、広く声に出して知らせておけば、誰かが必要な人を連れてきてくれるものだと感じました。

善五郎蔵

アーケードを撤去するだけでは、補助金はいただけませんでした。取った後の、街づくりや活性化につながるものが必要でした。私たちは、私が所有する蔵を利用することにしました。明治24年築の国の登録有形文化財に指定された三連蔵にテナントミックスで、しゃぶしゃぶ屋・眼鏡屋・山陰の若手作家の作品を紹介販売する店・貸しスペース・日替わりオーナーカフェに入店してもらいました。平成22年3月にオープンし、今まで中心市街地へ訪れたことのないお客さんを引き込むことができました。

ちなみに「善五郎」は、私の家業の襲名からとったもので、私の祖父15代までは、襲名していました。父は襲名しないまま平成13年に死亡し、私も襲名する意志がないためこの名を残そうと仲間たちが言ってくれて「善五郎蔵」となりました。

「ほっしょうじ通り」環境整備事業

平成21年度事業でアーケード撤去が終わり、22年度は環境整備事業を実施しま

した。国・県・市の補助金をいただき完成しました。当初の計画では、古い商店街なので、アーケードをとってそのまま柱に裸電球をつけて、レトロ商店街になると単純に考え申請しようとしていました。ところが、先進地視察に大分県豊後高田市に行き、考えが変わりました。豊後高田は観光地でした。レトロ商店街を前面に出しながら、箱物を年に1つずつ増やしているということでした。あくまで行政主導のまちづくりであり私たちには到底できるわけもなく、目指したものとも違っていました。地元密着型のまちづくりを考えていたので、白紙から始めなくてはならなくなりました。また別の日に、岡山県倉敷市に視察に行きました。観光地から少し外れた場所の街並みが印象に残りました。個性的な落ち着いたお店が点在して街歩きが楽しかったのです。それから私たちは、自治会長さんにも相談して、法勝寺町自治会47世帯すべてにお声掛けして、「まちづくり委員会」を毎週水曜の夜7時から計10回実施させていただきました。毎回10人程度の参加でしたが、商売人とは違う目線のご意見をいただき非常に助かりました。「今後、この空き店舗すべてを店で埋め尽くすのは無理だろう。だから若者が住みたくなる街、歩きたくなる街、来てみたくなる街を目指したらどうだろう。」という意見でした。「それはどんな街ですか」と尋ねたところ、「それは、花や緑でいっぱいの中街だ。公園のような中街だ。」と答えが返ってきました。翌週、その意見をボランティアの土木建築士の方が設計図を描いてこられてびっくりしました。それは6m幅の道路の3mは緊急車両用のブロック舗装。残りの部分は蛇行させながら芝生が敷き詰めてありました。樹木も植えてあり、たくさんのプランターには季節の花々。まるで公園でした。あまりにも奇抜で私たちは声が出ませんでした。その日はそれで終わったのですが、翌朝になると、会員の口から「あれでやってみよう」と皆同じ考えでした。

さて問題はこれからでした。どのように米子市に納得してもらおうか。市道に芝生を敷くなんて前代未聞でした。そこで考えたのが、まず「まちづくりフォーラム」を実施し、市長にパネラーで参加していただき、その中で打ち合わせなしに、この設計図を市民の方々に見てもらい、市長に内諾を得る、というものでした。これはものの見事に成功しました。それから米子市の若手職員の協力を仰ぎながら進めていきました。お互いの妥協点を探りながら設計図に近いものが、平成23年3月に完成しました。

「ほっしょうじ通り」が完成して半年経たないうちに2店舗が開業しました。1店は所有者の娘さんが通りの完成を見て、美容院を独立開業されました。もう1店は、

所有者の孫さんが通りの完成を見て、子供向け英会話教室を大阪から帰ってきて開業されました。住みながら商売するという、私たちの思惑通りの展開でした。

また毎年何百人もの方々が北は北海道、南は沖縄から視察に来られるようになりました。老朽化したアーケード問題はこれから全国的にあちこちで語られることでしょう。うちが成功事例とはいきませんが、実際撤去の話が聞けて現場が見られるのが訪れる理由でしょう。大半は行政職員に連れられていらっしゃる商業者が多く、こうした商店街の撤去改修はかなり難しいと考えていいでしょう。商業者が率先してやってこられるところは撤去改修が可能であると思います。アーケード問題は他人事ではないのですから、危機感を持ってあたれば解決実現します。

E Vカーシェア実証実験

アーケードを撤去する前までは、市や県に補助金の話があっても、法勝寺町商店街には他の商店街が断って最後に話がまわってきていました。それが撤去後は状況が変わり最初に話をいただくようになりました。「E Vカーシェア実証実験」も真っ先にお話をいただき受けることにしました。太陽エネルギーでつくった電力で電気自動車を走らせるという総務省の補助事業でした。実証実験後、民間事業者が善五郎蔵の駐車場を利用して米子初のE Vカーシェアを平成26年に始めました。

チャレンジショップ

駄菓子屋「ほっしょうじ本舗」跡で「チャレンジショップ事業」をやらないかと、米子市から話をもらい、平成23年から委託事業として現在も継続して運営しています。半年ないし一年営業して、チャレンジショップ卒業後、中心市街地の空き店舗に5店舗が独立開業しています。

軽トラ市

生鮮3品の店がもともとなかった商店街でしたので、ないものは定期的に持ってこようと軽トラ市を実施中です。決まった曜日の決まった時間に、野菜、魚、豆腐、パン等それぞれ車に積んで広場まで来てもらい販売しています。

農商連携

軽トラ市の話も農商連携の話からでした。となりの山あいの町の「法勝寺地区」と

私の住んでいる法勝寺町は江戸時代からのつながりでこのたびも何かやろうとお話をいただき、軽トラ市、田植え、サツマイモの苗植え、イモ掘り、ザリガニ釣り・試食、餅つき等実施交流しています。

商店街連携・共同イベント

隣の元町サンロード商店街が270mのアーケードを平成24年に撤去しました。うちの商店街とつながったため、共同イベントを平成25年に実施しました。月に1~2回のイベントを1年間通して実施しました。

いろいろ挑戦

その他、おもしろいと思うことに色々挑戦しました。アーケード撤去による雨対策のために「置き傘・貸し傘」の設置。環境整備による夜の風景の変化に着目し「ダラズ夜市」「夜の戸板市」の開催。「秋祭り」の開催。まちづくり意識高揚のために「善五郎コーヒー」「善五郎エコバック」「ほっしょうじ七福神レトルトカレー」等、オリジナル商品の開発販売。などなど挑戦しています。

今後の展開

平成26年9月現在、飲み屋横丁だった建物約240坪が解体されました。隣の空き地と合わせて、来年にはワンルームマンションが大阪の業者によって建設されるそうです。アーケードを撤去することによって様々なことが動き出しました。10年後20年後のまちづくりを目指して活動してきたのですが、全く未来は想像が付きません。シャッターは閉まっていますが中には高齢者夫婦がまだ生活されていてテナントに店を貸して下さいません。この状況は空き店舗と呼べません。ですから今は出来ることを、即行動し前向きになるようにしています。そうしなければ、何も変わらないし、活性化しないのです。みんなでわいわい、がやがや楽しくやるのが一番です。身の丈にあったことを、あきらめず実行するのです。イベントは失敗をよくしますが、反省はしません。それを肴に皆でバーベキューをするのです。そこでまた次やりたいことが生まれてくるのです。

最後に

私たちは、まちづくり会社の設立、コンセンサス形成、行政との関わり、関係機関

との調整等、先駆けとして苦勞しながら道を開き、その後の他のまちづくり会社の組成や他の事業実施の見本になっているようです。ただ当人の我々にはその意識はまったくありません。自分の住んでいる街を良くしよう、目の前の問題に一生懸命向かい合った結果がそうっただけなのです。それなりの苦勞や失敗は多々ありますが、我々の行動に賛同し多くの人材が集まり、現在も関わってくださっていることが大きな喜びで何物にも代えがたい財産であると思います。これからも、今まで通り皆とわいわい、がやがや賑やかに楽しくまちづくりに参加して行こうと日夜動き回っています。